

## **自分の目の梁を取り除け**

マタイの福音書 7章 1-5 節

### **はじめに**

私がウェルカム・サンデーで説教をさせていただく時は、マタイの福音書 5-7 章に書かれているイエス様が語られた説教からお話しています。

今日の聖書箇所のテーマは、「人をさばくこと」です。イエス様は、1 節で「**さばいてはいけません**」と言われます。「さばく」という言葉は、「裁判する」という意味ですが、ここでは特に「人を罪に定める」「人の罪を指摘する」という意味で使われているように思います。

イエス様はここで、「人を罪に定めること」「人の罪を指摘すること」をすべて禁じているのでしょうか。私たちの社会では、裁判制度があり、「人を罪に定める」ことがあります。また私たちのあらゆる人間関係でも、「人の罪を指摘する」ことはあります。家庭の中でも、子どもが悪いことをしたら、それを指摘し、叱り、時には罰を与えることもあります。また教会でも、信徒が重大な罪を犯した場合は、その罪を指摘しなければなりません。そして悔い改めない場合は、牧師や長老はその信徒に戒規を執行するように定められています。

このように社会の中でも、家庭の中でも、教会の中でも、「人をさばく」ということは必要なことのように思えます。なぜなら人間には罪があるからです。人間に罪がある以上、「人をさばくこと」、人を罪に定め、人の罪を指摘することは避けられないことのように思えます。むしろ、人をさばかず、人の罪に無関心でいるならば、社会も、家庭も、教会も大変なことになってしまいます。また、人をさばかず、人の罪に無関心でいることは、無責任であるようにも思えます。なぜなら、人の罪のゆえに苦しんでいる人が必ずいるからです。「正しいさばき」というのは、人間に罪がある以上、必要なことだと思います。

ではイエス様はここで、何を禁じているのでしょうか？イエス様は、どのような意味で「さばいてはいけません」と言われたのでしょうか。

### **1. イエスが禁じているさばき**

3-5 節を見てください。「**あなたは、兄弟の目にあるちりに見えるのに、自分の目にある梁には、なぜ気づかないのですか。兄弟に向かって、『あなたの目からちりを取り除かせてください』と、どうして言うのですか。見なさい。自分の目には梁があるではありませんか。偽善者よ、まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取り除くことができます**」。

イエス様が禁じている「さばき」というのは、自分の目の梁を取り除かないで、人の目のちりを取り除こうとすることだと思います。つまり自分の罪には目を向けなくて、人の罪だ

けを指摘することではないかと思えます。

本来、人の罪をさばくことができるのは、神様だけです。罪のない神様だけが、人を罪に定め、人の罪を指摘することができる方です。しかし神様は、この世界に秩序を与えるために、裁判所に人をさばく権威を与え、両親に子どもをさばく権威を与え、教会の牧師や長老に信徒をさばく権威を与えられたのだと思えます。本来、罪ある人間が人の罪をさばくことなどできないことです。自分自身が罪人であるのに、どうして人を罪に定め、人の罪を指摘することができるのでしょうか。

人が人をさばき、人が人を罪に定め、人が人の罪を指摘することは本来難しいことです。しかし、それをわきまえないで、むやみに、軽々しく人をさばき、人を罪に定め、人の罪を指摘するのが、私たち人間の悲しい現実です。そこからあらゆる傷や争いが生まれてきます。

イエス様が禁じていることは、自分の罪をわきまえないで、むやみに軽々しく人をさばくことです。人をさばくことは、本来、私たち人間にはできないことです。しかし人間に罪がある以上、人をさばき、人を罪に定め、人の罪を指摘しなければならないことがあることもまた現実です。ですからその時には、むやみに軽々しく人をさばいてはならないのです。人をさばく時には、まず自分の罪に目を向けなければならないのです。人の罪を指摘することから始めてはならないのです。まず自分の罪に目を向け、自分の罪を取り除いてから、人の罪を扱わなければならないのです。

## 2. 人をむやみにさばくとき

では私たちがもし、人をむやみに軽々しくさばく時、どのようなことが起こるのでしょうか。1-2節を見てみましょう。「**さばいてはいけません。自分がさばかれたいからです。あなたがたは、自分がさばく、そのさばきでさばかれ、自分が量るその秤で量りとえられるのです。**」

私たちがもし、人をむやみに軽々しくさばく時、私たち自身がさばかれるのです。では私たちは誰から裁かれるのでしょうか。それは、人と神様からでしょう。私たちは、誰かをむやみに軽々しくさばく時、そのさばいた人から「お前はどうかんだ」「お前はできているのか」「お前はしたことがないのか」と心の中で問われるでしょう。また神様からも、「お前はどうかんだ」「お前はできているのか」「お前はしたことがないのか」と問われるでしょう。

私たちは、人をさばき、人を罪に定め、人の罪を指摘する時、その罪はあなたにないのかと、人からも神様からも問われることになるのです。それが、「自分がさばく、そのさばきでさばかれる」ということの意味でしょう。

私たちは、人をさばく前に、まず自分をさばかなければなりません。人をさばく前に、まず「自分はどうかんだ」と問わなければなりません。

神様は、私たちが自分をわきまえない時、私たちをさばかれます。Ⅰコリント 11：27-32には、こういう言葉があります。「**もし、ふさわしくない仕方パンを食べ、主の杯を飲む物があれば、主のからだに血に対して罪を犯すこととなります。だれでも、自分自身を吟味して、そのうえでパンを食べ、杯を飲みなさい。みからだをわきまえないで食べ、また飲む物は、自分自身に**

るさばきを食べ、また飲むことになるのです。あなたがたの中に弱い者や病人が多く、死んだ者たちもかなりいるのは、そのためです。しかし、もし私たちが自分をわきまえるなら、さばかれることはありません。私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることがないように、**主によって懲らしめられる、ということなのです**」。これは聖餐式の時に、自分を吟味して、よく自分をわきまえることを勧める言葉です。もし自分をわきまえずに聖餐式に与るなら、自分にさばきを招くことになるというのです。

イエス様を神と信じ、自分の救い主として信じているクリスチャンは、神様の永遠のさばきから救われます。すべての罪が赦され、天国へ導かれます。しかしクリスチャンは、その意味でのさばきからは救われますが、「懲らしめ」という意味でさばかれることがあるというのです。弱さを与えられたり、病気になったり、死ぬことさえあるというのです。救われるけれども、主の懲らしめとして、弱さを与えられ、病気を与えられ、時には死ぬことさえあるというのです。その意味で、救われたクリスチャンもさばかれるのです。

神様は、どういう時に私たちがさばかれるのでしょうか。それは、自分自身をわきまえない時です。自分自身の罪を見つめ、向き合わない時です。自分自身の罪と向き合わずに聖餐式に与る時です。また自分自身の罪と向き合わずに、人をさばき、人を罪に定め、人の罪を指摘する時です。その時に神様は、私たちがさばかれるのです。

### 3. 人を真実にさばくためには

私たちは、むやみに軽々しく人をさばく時、自分自身が神様からさばかれることになります。その意味で、人をさばくことは決して、簡単にできることではありません。しかしそれでも、人間に罪がある以上、私たちは人をさばかなければならない時があるのです。

イエス様は、人をさばくことは、自分自身もさばかれるリスクがあるから、誰をもさばかないようにしなさいと言われたのでしょうか。もし人をさばくことを一切しなくなれば、社会も家庭も教会も無秩序になり、大変なことになってしまいます。イエス様は5節で、「**まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からちりを取り除くことができます**」と言われました。イエス様は、「兄弟の目のちりはそのままにしておきなさい」とは言われませんでした。イエス様は、最終的に兄弟の目のちりを取り除くことを望んでおられるのです。イエス様は、人をさばくことを一切禁じているのではなく、人をむやみに軽々しく人をさばくことを禁じているのです。むしろイエス様は、私たちが正しく人をさばくことを望んでおられるのだと思います。

では私たちは、どうしたら人を正しくさばくことができるのでしょうか。それは、「まず自分の目から梁を取り除くこと」です。「梁」というのは、家の屋根を支える大きく太い横木の事です。他の聖書では、「丸太」と訳されています。いずれにしても、大きく太い木です。イエス様は、自分の目からこの大きく太い木を取り除いた者だけが、他人の目からちりを取り除くことができると言われます。

考えてみれば、他人の目からちりを取り除くことは大変なことです。たとえ目の中に梁が

なくても、普通の距離感では人の目の中のちりはよく見えません。顔をよく近づけなければ見えないほどです。しかも目はとてもデリケートです。傷がついたら大変ですし、人の手が自分の目に入ってくることはとても怖いことです。私たちはすぐに目をつぶってしまいます。このことから考えても、自分の目に梁があったら、他人の目のちりを取り除くことなど、到底できないことは分かります。

では、どうすれば私たちは、自分の目の梁を取り除くことができるのでしょうか。恐らくそれは、自分の力だけではできないことです。あまりに大きく太いものですから、自分で取り除くことはできないでしょう。私たちは、自分も努力するでしょうし、周りの人に助けをもらいましょうし、何よりも神様に助けをもらわなければなりません。

私たちは、人の罪をさばく前に、まず自分の罪をさばかなければなりません。そして、人をさばくことができる唯一の方である神様のさばきの前に立たなければなりません。そして自分の罪を認めて、熱心に悔い改めなければなりません。神様は、自分の罪を認めて、熱心に悔い改める者を、さばくことはありません。なぜならイエス様が、その人の代わりに十字架でさばかれてくださったからです。自分の罪を認めて、熱心に悔い改める者は、赦されるのです。

自分の目の梁を取り除くとは、自分の罪を認めて熱心に悔い改め、神様の赦しを確信することです。そういう人だけが、人の目からちりを取り除くことができるのです。他人から目のちりを取り除いてもらうことは怖いことです。自己防衛的になってしまいます。そして痛みを伴うことです。しかし、自分の目の梁を取り除くという大きな痛みを経験した人だけが、人の目からちりを取り除くことができるのです。

## **おわりに**

人をさばくということは、単に人を罪に定め、人の罪を指摘することではありません。本来の意味で人をさばくということは、その人を悔い改めに導き、その人を主にある赦しへと導いていくことです。

人をさばくことはリスクのあることです。もしむやみに軽々しく人をさばけば、自分からも神様からもさばかれることとなります。また人をさばくためには、自分の目から梁を取り除かなければなりません。大きな痛みを伴うものです。しかしそれでもイエス様は、「兄弟の目からちりを取り除け」と言われるのです。

私たちは、人をむやみに軽々しくさばいてはなりません。しかしそれを恐れて、人の罪と関わらず無関心でいてもいけません。イエス様は、そのどちらも望んでいないように思います。私たちは本来、人をさばくことはできない者ですが、それでも時には人をさばかなければならないのです。罪人が罪人をさばかなければならない時があるのです。しかしその時には、自分も同じ罪人であることをわきまえる必要があります。いやむしろ自分こそ目の中に梁がある者として、罪人の頭として、人の罪を扱わなければなりません。そして主の恵みによって赦された者として、赦す心をもって人をさばかなければならないのです。

天におられる私たちの父なる神様。

私たち人間は皆、生まれながらに罪を持つ者たちです。その罪によって、多くの悲しみと苦しみが私たちにもたらされています。あなたは罪をさばくことができる唯一の方です。あなたの御前に、私たち一人ひとりが真実に罪を認め、悔い改めることができますように。あなたは、真実に悔い改め、イエス様に依り頼む者を限りなく赦してくださいます。どうか私たちが、自分自身をよくわきまえることができますように。そして、自分の目の中にある梁を取り除くことができますように。そして謙遜に、愛をもって、人の目からちりを取り除くことができますように。

この祈りを私たちの救い主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。